

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (37)

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

言語的には英語（米語）とスペイン語が衝突する米・メキシコ国境であるが、壁問題では What if Mexico decided to build stairs on their side of the wall? 「メキシコは自分たちの側の壁にハシゴを造ったらどうか?」という tweet を投稿した人もあった。Trump 前大統領と現民主党女性下院議長 Nancy Pelosi 氏とはこの壁問題でも相当な壁? があった。今回の(1)はたびたび見てきた国境の壁そのものの問題ではなく事実上は終焉したロシア疑惑での Pelosi 氏の対応、(2)と(3)は大統領選に関わる内容のものである。

(1) Such a “puff piece” on Nancy Pelosi by @60minutes, yet her leadership has passed no meaningful Legislation. All they do is Investigate, as it turns out, crimes that they instigated & committed. The Mueller No Collusion decision wasn’t even discussed — and she was a disaster at W.H. (April 14, 2019)

▲まずは、やはりこの tweet を前回・前々回に提示した電光掲示板式に decode 化し横方向（水平方向）に入力され縦方向（垂直方向）に回転する回転英文母型 Matrix Screen (MSOE)モデルで reading / listening 上でのパターン認識による理解法を確認してみる。

Matrix Screen of Output English (MSOE [émsou])

STATEMENT					
		THEME: NP	RHEME : VP		
STR	C/C	N ₁	COP/V	N ₂ /N ₃ /A	ADV
1	φ	φ	φ	Such a “puff piece”	on Nancy Pelosi
2	φ	φ	φ	φ	by @60minutes, /
3	yet	her leadership	has passed	no meaningful Legislation. //	φ
1	φ	All	φ	φ	φ
2	φ	they	do	φ	φ
3	φ	φ	is	φ	φ
4	φ (to)	φ	Investigate,	φ	φ
5	as	it	turns out,	crimes /	φ
6	that (= them)	they	instigated & committed. //	φ	φ
1	φ	The Mueller No Collusion decision	wasn’t even discussed — /	φ	φ
2	and	she	was	a disaster	at W.H. //

(備考) 単一斜線 (／) は各文での意味的 2 分割線。

文中で Investigate の頭文字 I が大文字書きで、内容は「テレビ番組 ‘60 Minutes’ で Nancy Pelosi 下院議長を誇大評価したが、彼女のリーダーシップの下で何も意義ある法案の成立はなし、彼らは自分たちがそそのかし犯した罪を調査しているだけだ、ロシア疑惑で共謀なしという Mueller (モラー) 報告書 (概要) の結論さえ話題にされなかった、N. Pelosi は White House では酷 (ひど) い人物だ(disaster)」というものである。

語釈的には下線の puff piece での puff は擬声語で「プカプカ、フワフワ」の感じである。piece (小片) は「コト、モノ」を意味する。puff piece とは「フワフワしたいいい加減なこと」で、ここでは法案(a piece of legislation) のこととの関わりも感じとりたい。

太線語 instigate は文脈からはマイナス (－) のイメージ語であることは推測できる。本連載(11)で提示した英語同系語パノプティコン(PPE)をよりどころに音とスペリングにじっくり注目すると、Basic 語 **stick** が見えてくる。同系語である。instigate は「棒で突くこと」の原義(root sense)をもっていて、「そそのかす、扇動する」の意味である。実は本連載(20)の(1)ですでに扱ったが Basic 語 **stitch, sticky, stocking, ticket, attack** はすべて同系であるし、un-Basic 語 **steak, stake, stock, stack, staff, etiquette, etc.** もそうである〔拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(5)参照〕。

もう 1 つの太線語 disaster は占星術的な背景をもっていて Basic 語 **star** と同系である。これも本連載(1)の③で確認した。PIE etymon の音素形は/STA/, /SED/で、原義は「立って動かないこと」「座って動かないこと」である。disaster は{dis (= away) + aster (= star)}で、「星の異変」という見方から「災害」の意味となった。天変地異は星の異変で起こり、これは神の業だという考え方がある。Basic 語 **desire** と同系で、これは「星を欲しがり求めること」である。また、Basic 語 **seat, side** と同系となるし、un-Basic 語では **consider** (考慮する) など同系でこれは「星を見て考える」という意味を含めている。他に **session** (会期)、**obsess** (取りつかれる)、**possess** (所有する)、**assessment** (評価・査定) など同系語である〔同上拙著、第二部、例(62),(63)参照〕。

なお、この tweet で第 2 文は挿入節も組み込んでいて Matrix Screen 上では 6 層となるが、reading / listening でやや負担だろう。挿入節の as it turns out ではこの場合、最初の as を[æz]と強音で言う人も多いはずであるが、弱音の[əz]で[əzi(t)tə:nzaut]のように発話されると、しばしば強音部の[tə:], [au]ぐらいしか聴取できなくなろう。

この文の reading / listening では、Matrix Screen (MSOE émsou) の COP/V での Investigate が目的語としての N₂ が欲しいこと、そしてそれをはぐらかさないよう追っている必要がある。ここではそれが crimes であり、文がこの crimes で意味的に 2 分割されると同時に、さらに CC の that (= them)でつながっていく意味ベクトルとなる。

付け加えて、ここでの仮称 MSOE モデルは構造主義言語学(structural linguistics)風のもので、抽象的な構造主義哲学(structuralism)を単純に外国語学習での語句の置き換え練習のレベル・次元のごときもののみとして認識されていては寂しい。人間 (ヒト) は文脈・状況依存(context [situation] dependency)で repetition (反復) の過程を経て言語の pattern (パターン) を発見し、それを社会的慣習(social custom)として体系化(systematize)・内在化(internalize)していく社会的動物である。外国語修得で pattern practice は必須なものであるが、これをたとえば John でもない人物(A)が My name is John. Repeat [Say] after me. と言い、それを聞き人物(B)が My name is John.などと繰り返すような単純なものという認識では数学的構造主義言語学風の pattern practice の本質は理解されない。ヒトと鳥のオウムの違いは本連載(34)、前回(36)で触れた。

日本での入門期英語で欠かせないのが検定本3巻のひたすらな音読で、これも pattern practice である。仏僧の經典読みのごとく、これのみの反復繰り返しの音読で必ず英語はものになる。100%その力は群を抜くものとなる。他事の試みは実は雑念ともなり、かえって逆効果。他に目を向ける時間はそれを検定本音読で「pattern の発見」に費やすのが最も要領がよい。入門期の検定本3巻のみ（特に第2巻が魂になる）の音読で培った力はその後も必ず確固たる基本となるが、徐々に必ず語彙力が必要となる。語彙力養成のためには本連載で見ているような手法によるのが最も手早く要領がよいはず。

(2) The forgotten voters of the 2016 Election are now doing great. The Steel Industry is rebuilding and expanding at a pace that it hasn't seen in decades. Our Country has one of the best Economies in many years, perhaps ever. Unemployment numbers best in 51 years. (April 15, 2019)

▲最初の大統領選(2016年)で私(Trump)に投票した五大湖周辺のかつて栄えたいわゆるラストベルト(Rust Belt)〔錆びた重工業地帯〕の人たちが忘れられているが、彼らは立派にやっていると3年後の2019年にTrump氏が言っている。鉄鋼産業は何十年ぶりの繁栄で、米国の経済成長は良好、失業率は(統計上)51年間で最も低いという内容。

太線語 perhaps の語形から Basic 語の **happy, keep** など、un-Basic 語の happen, cap, cape, escape などを感じたい。escape {es (= out) + cape} は cape (外套) を脱ぎ捨てて逃げる。元来は本連載でたびたび見た PIE etymon の音素形/KAP/からで、原義は「獲物の頭をつかむこと」である。獲物を捕まえることは確率性のこと(perhaps)でもあり、この捕獲は喜び(happy)であった〔同上拙著、第二部、例(2)参照〕。

太線語 unemployment (失業) は、本連載(33)の(2)で扱った「折り畳むこと」を意味する PIE etymon /PLEX/ からで、Basic 語 **simple, complex** などと同系。un-Basic 語では[p]が[f]になった flexible (弾力性のある)、reflex (反射作用)なども同系。

(3) I believe it will be Crazy Bernie Sanders vs. Sleepy Joe Biden as the two finalists to run against maybe the best Economy in the history of our Country (and MANY other things) ! I look forward to facing whoever may be. May God rest Their Soul ! (April 16, 2019)

▲2020年大統領選の1年半前に約20人が候補者として上がっていた。ここでは民主党上院議員 B. Sanders 氏と元副大統領 J. Biden 氏を Trump 氏はそれぞれ Crazy (狂った)、Sleepy (寝ぼけた) と称し、「この2人が有力候補だが、大統領選では私 (Trump) は誰とも対抗する」とこの時点で言っていた。なお、Trump 氏は Hillary Clinton のことはほぼ決まって Crooked (ねじれ曲がった) を用い、Crooked Hillary と称した。

試問 段落文誤文訂正 : この(3)の tweet 文を試問で誤文訂正として扱ってみる。音韻的にリズムカルに書かれた段落文であるが、1箇所誤りがある。それはどこか。

英文段落(paragraph)中の誤りを見抜く力は最終的なもので、やはり上記 structural linguistics (構造主義言語学) 的なものと言えよう。このあたりは本連載(33)で触れた taxotagmemics (談話文特性素論)、また前回(36)でも触れたが実利的な corpus linguistics (コーパス言語学) 研究の一端として多くの研究者が特別に Trump 氏の英語をコンピュータ処理で分析を試みている。英語の母語話者の脳には文の pattern が組み込まれ、体系化(systematized)された lexicon (= mental dictionary: 心的・内面辞書) が格納・内在化(internalized)されていて、彼らは pattern に外れる文は即座にそれを直

感する。上の tweet 文での誤りの箇所は3行目の whoever の後ろに it が抜け落ちている。これを入れるのが正解。1行目から2行目にかけて it ... to とともに内容的に並行する。

ここで本連載前回に提示した弱音系・強音系それぞれ(3±α)語による心的2拍子リズム(mental prosody)のきわめて分かりやすい Basic 文例として、拙稿(2009)「入門期の英語と Basic English」(*News Bulletin* No. 61, pp. 28-38、GDM 英語教授法研究会)で扱ったもので改めて確認しておこう。弱音系と強音系の2種で感じる音の流れが察知できよう。意味も弱音系ではなく強音系の語(句)から分かる。F. J. Daniels 著 *Stories from Okinawa*『沖縄民話』(1981, p.33)での文例である。

<Basic 文例> : In a certain place in the island of Okinawa there was an old man who was poor. He had a very kind heart and was respected by all those living near him.

弱音・強音で感知する英音の心的2拍子リズム(mental prosody)

(弱音系)	(強音系)
In a	certain place
in the	island
of	Okinawa
there was an	old man
who was	poor. //
He had a	very kind heart
and was	respected
by	all those living near
him.	φ //

これはほんの一例であるが、Basic の音韻体系は一般の英語のそれとは違うことも特に強音系の語を通して見えてくるはずである。意味はやはり強音系の語の縦読みだけでも分かる。今度は上の(2)の Trump 氏の tweet を同様に2拍子リズムで提示しておく。

(弱音系)	(強音系)
The	forgotten voters
of the	2016 Election
are	now doing great. //
The	Steal Industry
is	rebuilding
and	expanding
at a	pace
that it	hasn't seen
in	decades. //
Our	Country has one
of the	best Economies
in	many years, perhaps ever. //
φ	Unemployment numbers best
in	51 years. //
